

KURU 鯉 恋こい

15

令和元年度卒業証書授与式を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、卒業式は中止となりましたが、下瀬学校長先生にお越しいただき、卒業証書授与式を執り行いました。簡素な式となりましたが、3年間慣れ親しんだ教室で、心のこもった、記憶に残る式となりました。



第55回卒業生のみなさんへ

2019年12月に中国の武漢市を中心に発生した新型コロナウイルスが、日本各地に拡大し、3月3日の卒業式は、学校関係者のみでの開催となりました。厳粛な雰囲気の中、卒業の喜びとさみしさ、そして、旅立ちへの新たな決意を感じました。階段教室でしたが、そのおかげで皆さんの顔がよく見えました。答辞では、豪雨災害のときの友人や皆さんの励ましへの感謝、これまで育てていただいた両親への感謝などもあり、大変感動しました。

外来2階に、緒方洪庵の「扶氏医戒之略」という巻物が掲示されています。昭和46～56年に勤務された、緒方洪庵のひ孫にあたる、緒方晴男先生からご寄贈いただいたもののレプリカです。12章の医師の義務からなり、9番目の章に「常に篤実温厚を旨として」と記されています。「篤実」はまじめで思いやりがあること、「温厚」は穏やかで情に厚いことです。思いやりをもって優しく誠実に看護を実践してください。

国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校 学校長
下瀬 省二



～感謝の気持ちを込めて～

この度、定年退職の日を無事迎えることができました。未熟で不安だらけの中、28歳で教員生活をスタートし幾星霜。一緒に働いた教職員の皆様、臨床の方々、何より学生に助けられながら、また無理を強いてばかりだった家族にも支えられて勤めることができました。

先日歯科受診の際、奥歯をかみしめすぎで摩擦が激しいと指摘され、先生より、「もう歯を食いしばって頑張らないように…」と励まされました。同年代の人たちと共通する老化現象だとは思いますが、教育の現場はやはり学生のロールモデルとしての役割が多く、気を張っていたと思います。以前保護者の方からお手紙をいただき、「喜びも苦しみも多い分感動の多い仕事だと思います。」と言われました。私が長く続けてこられたのは、学生とともに学び学生の成長を身近で実感できたからだと思います。多くの出会いと喜びを与えてくださった方々に感謝し、今後は、自分のペースで色々チャレンジしていきたいと思っています。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



伊藤 由紀枝

1年生

この1年は様々な行事に、授業、演習、試験と忙しくも充実した日々を送ることができました。特にスポーツ交流大会では応援団として参加し、仲間と一つの目標を達成することの難しさと楽しさを学ぶことができました。2月の基礎看護学実習Iその2では、自分の技術力の未熟さと知識不足を痛感しました。これからも、日々の学習を大事にし、様々なことを身につけていきたいです。

原田 薫



3年生

3年生では、実習や講義にも、ラストスパートをかけ、挑みました。実習が全て終了してからは、看護師国家試験の勉強に力を入れて、放課後も遅くまで残って、皆で勉強しました。国家試験の受験が近づいた日の出陣式では、これまでお世話になった諸先生方から、激励のお言葉と品々を頂いたことで、今まで努力してきた自分にさらに自信をつけて、国家試験本番に挑むことができたと思います。

中山 夢菜



2年生

2年生では、看護学生フォーラム、スポーツ交流大会、学校祭、KINTを通して、他校の学生や地域の方々との交流の機会を持つことができました。他校の学生との交流を通して、普段聞けない話や他校の人たちがどのような学校生活を送っているのか、どのような勉強法をしているのか等聞くことができました。このことは、実習への取り組み方や普段の勉強方法の参考になりました。学校祭では、2年生は来校していただいた方々に、手浴と足浴を行い、大変喜んでいただきました。この学校で学んだ基礎看護技術を、普段お世話になっている方々に披露できるよい機会となりました。

西尾 千夏



大森 風香 53回生



私は、当校を卒業後手術室に配属となり、3年目を迎えようとしています。患者さんにとって手術は人生の中での一大イベントです。命に直結している場であり、常に責任感や緊張感をもって臨んでいます。

特殊な環境であり、専門的な知識や技術が必要とされ、今でも新しく学ぶことばかりですが、常に先輩方が気にかけて声をかけてくださったり、気軽に相談ができる環境で、とても明るく楽しい雰囲気部署です。また、最初はフォローの先輩がついて教えてくれ、独り立ちをしてからも常に先輩看護師とペアで行動するため、安心して取り組むことができます。

そのため、日々手術室看護の魅力を感じながら、楽しく学ぶことができます。

倉橋 結花 54回生



私は呉医療センターに就職し、現在7B病棟で勤務しています。7B病棟は呼吸器内科・脳神経内科・眼科の混合病棟になっています。就職して約一年が経ち、当初は右も左もわからず覚えることもたくさんで勉強の日々でした。

7B病棟の先輩方はとても優しく、わからないことを質問すると一つ一つ丁寧に教えてくださり、よかった面に対しては褒めてくださいます。日々落ち込むことやできないことに悩むこともありますが、同期や周りの先輩方に支えられて頑張ることができています。呉看護学校での講義・実習で学んだ知識・技術は臨床現場で活かせることばかりで、学生時代に頑張っておいてよかったと思うばかりです。皆さんも試験に実習に大変なことが多いとは思いますが頑張ってください。

編集後記

令和となり、初めての新年が明けて間もない時期に中国で新型コロナウイルスによる感染症が発生し、あっという間に日本中に感染が拡大してしまいました。その影響で55回生の卒業式は中止となり、教室を使つての卒業証書授与式を執り行うという、この学校始まって以来の事態となりました。まだまだ落ち着かない状況の中、この学校に長い間寄与くださいました伊藤教育主事先生が3月で学校を去られます。心より感謝申し上げます。先生のますますのご健勝とご多幸を祈念いたします。

編集長 川上 佐代 曾良岡 朋子

編集委員 1年生：竹中 深由紀 西田 花蓮 平岡 紗蘭
 2年生：西尾 千夏 坂井 彩乃 脇本 美幸 古賀 遥香
 3年生：中山 夢菜 中森 友梨 酒井 志瑞 永本 奈那

